

めだかの学校だより

令和7年2月1日

第126号

学舎：周智郡森町

「一宮総合センター」

事務局：静岡県磐田市

家田 529-20

TEL:0539-62-6691

校長訓話

第二二六回 校長 袴田 克臣

「道を歩く」

「杭迫先生との出会い」

森町出身の杭迫柏樹先生は、日展内閣総理大臣賞や日本芸術院賞を受賞し、平成20年には旭日小綬章を受章されるなど日本を代表する書家です。私は森山焼の窯元の家に生まれ、戦後の厳しい時代に杭迫先生の生家「山中家」から、ご次男が窯元の手伝いをしに来てくださったことをきっかけに、家族ぐるみのお付き合いが始まりました。それ以来、私は長年親しくさせていただいています。令和4年には森町名誉町民第1号に選ばれたことは、自分のこと以上にとても喜ばしいことでした。

「杭迫先生の通信教育」

昭和50年に杭迫先生に相談事をしに京都の家を訪ねました。ちょうどその頃、先生が通信教育を始められ、森町からも参加するようにお誘いいただき、森町から20人余りの人が参加しました。先生の指導は、カセットテープで行われ、生

徒が書を送った後、先生の的確なご指導の言葉がメッセージとして届きました。それぞれの生徒の書を見ているだけに、「肘について書いているのではないのか」「姿勢が悪いのではないのか」とあたかも書いているところを見ているような指導でした。

「弓道家としての杭迫先生」

先生には、弓道家としても、ご指導をいただきました。先生の指導はとても厳しく、弓を射らずに指導をしているのをただ座って見ているだけです。ごく緊張し、翌日は筋肉痛になってしまふほどの緊迫感のあるものでした。その甲斐あって私は国民体育大会に弓道・成人女子の部ができた時には県最終選考に臨みましたが、私は惜しくも選に漏れましたが、同郷の森高校の生徒が県代表として出場し、優秀な成績を収めました。

「杭迫先生からのメッセージ」

先生は3歳上の良き先輩ですが、本心に尊敬できる師としても慕っています。そんな先生から便りが届きました。「悠々会だより」という冊子で先生の後援会が発行しているものです。その中で「歩く」

ことについて書かれた一節が非常に興味深く感銘しました。

「“歩く”にもさまざまなあるが、私は「健康のために歩く」というものはあまり好まない。やはり、「豊かな人生のために歩く」のが好きである。

- ・ただ無意味にぶらぶらと
- ・構想を練るために右往左往と
- ・名勝に感動して我を忘れて
- ・旧跡をたずねて教養をたかめ
- ・おいしい空気をいっぱい吸い込み
- ・大事な人とドキドキ、イソイソ
- ・好きなことのために千里の道も遠しとせず

等々、豊かな人生のために歩きまわり、結果として心身ともに健康になるというおまけがつくのがよい。」私は先生より「書道」「弓道」を教えていただきましたが、森町出身の先生の示した新しい道を歩いていきたいと思えます。

※杭迫先生の作品は森町文化会館ミキホールに常設で展示されていますので、ぜひご覧ください。



めだかの学校伝言板

第126回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／袴田克臣

教頭／村松達雄

用務員／天野智加志

給食係／※給食は取り寄せです。

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮 3150

「一宮総合センター」

※コロナはまだ収まっていません。

消毒とマスクはして下さいね。

開校日／令和7年3月1日（土）正午～

受付／大場敬子・大橋町代・榊原幸雄（後見人）

32期通年テーマ：『♪めだかは続くよ どこまでも…』

今回のテーマ：《はるかなまちまで旅の夢をつなぐ…》

<時間割>

●1時間目 道徳

「報徳と骨董と…」 大谷洋介先生

2時間目 社会

「わたしのボランティアとは…」 鈴木偉代先生

3時間目 音楽

「浜松から音楽を広めよう…」 中村明男先生

●給食は取り寄せです。

PM3:15 開校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■獅子ヶ鼻公園初日の出

令和7年元旦、磐田市の北部。岩室の獅子ヶ鼻公園初日の出。今年も多くの人で賑わいました。草地博昭メダカや、秋山勝則メダカ、田村進治メダカも、日の出と共に皆さん声を張り上げて、いい年でありましように。と。私のところには田村メダカからLINEで映像が。私は今年は無理せずお雑煮をいただいてました。美味しかったです。(笑)

(バラメダカ)



※写真は豊岡東交流センター提供

■「土からはじめる布づくり」

をコンセプトに、昨年より「綿」のプロジェクトを磐田市福田地区で始めました。かつてはこの地の主産業であり、戦後の日本復興の立役者であった繊維産業でしたが、今は生産の大半を海外に頼る現状。「ガチャマン景気」に沸いた時代も、語れる人達が少なくなりました。

生き残った日本の繊維業界は、化学の力で生まれる高機能繊維の追及に向かい、国

民はそれを消費する。エネルギーでは脱炭素を謳いながら、衣・食・住の「衣」がこの方向でよいのだろうか？という疑問も(高機能繊維の大半は石油由来)。

綿を栽培し、糸を作り、布を織る。シンブルで単純な作業の連続ですが、生活の原点に一度立ち返って考えてみたいと思っています。

今年も4月から、綿の種蒔きから始めます。お仲間も常に募集中です！

(大島たまよメダカ)

『人・ひと・ヒト…だより』

※今回は手紙や年賀状からの便りです。



令和7年元旦

●藤枝市の小嶋良之メダカ。今年の言葉は、谷川俊太郎さんの3人目の妻、佐野洋子さんの挿絵との合作「女に」から。

どこかに行こうと私が言う

どこかに行こうかとあなたが言う

どこでもいいなと私が言う

どこでもいいねとあなたが言う

言ってるうちに日が暮れて

ここがどこかになっていく

…今ではこの詩と同様な会話を妻としていることに苦笑する日々です、だって。今

年も言葉ありがとう！。言葉の持つ力って凄いいねえ。

●森町の神原淑友メダカ。太筆文字で『人生二度なし』だって。力強い達筆文字。気合十分でございますヨ。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。郵便制度、手紙文化は消え行く絶滅危惧種とも言われて久しい。ささやかな抵抗を年賀状で！。

口(くち)先ロマンで本音は段々辛くなりました。だって。いやゝ分かります、分かります。来年は出す枚数が減りそうでございますよ。ハイ。

●浜松市引佐町の石野省三メダカ。昨年は大谷翔平選手が世界の大谷に昇りつめた。素質と努力ではあるが根底にあるのが子どものころから両親や教師から教えられた倫理観や道徳観を実践している人間性が素晴らしい。新しい年を迎え人としての基本を共有理解しあい平和な地球を期待したい一歩でも前進して欲しいと願う、だって。さすが教育者だね。見る目が違うね。やっぱ教育が基本だね。デスね。

●森町の天野智加志メダカ。俳句「みほとけの道」佛塔つつむ尼蓮禪河の冬落暉(ブツダガヤ)、托鉢僧村は戸毎に吊し柿(旧敷地村)、海のごと心たひらか初座禅(磐田永安寺)。7句のうち3句です。3月めだかおてやわらかにお願いします、だって。行きすぎになりそうな校長先生を押さえるのが用務員さんの仕事かも。(笑)。

●浜松市の水村春江メダカ。「かたじけな七度めぐる千支の春」春江。7度目の年女。だって。いやゝさすが、写真を見る限り年は感じないな。(笑)

●掛川市の横山忠志メダカ。『たのしみながくつづく1年に』ヘビの背にのった忠福さん。下には小判がゴロゴロの図柄。財布の中味もゴロゴロ。こんな楽しみが続くといいいね。現実には春から区の副区長が

回ってきます。向こう3年多忙になりそうですね、だって。いやいや、これもご縁ですよ。

●磐田市の今村純子メダカ。年を重ねて125回、西部農林事務所へ勤務の頃より出席。お世話になって、皆々様の「我」「各々の生き方」が大変参考になった。年を重ねて古い姿でも自身は年寄りと思わなく、日々元気なのは皆々様のおかげです、だって。私たちの方こそ元気をいただいていますヨ。ハイ。

●三島市の野村諒子メダカ。「皆さん、出番ですよ」。三島市の少子化が止まりません。伊豆のある町では、新生児がゼロの町もあるそうです。女性活躍社会は、女性も男性も、結婚のハードルが高くなっている。へとへとで帰っても、子どもの世話、食事の支度、洗たくが待っています。座れば夕食が出てくる時代ではありません。結婚に慎重になるのもわかります。若い人を支えるジジババの出番ですよ！、だって。

●浜松市佐久間町の山田修平メダカ。不登校ではないですが…。縁側カフェ、ぼちぼち来て頂いています。1年に1度、同じ季節に来るお客さん、お子さんが年々成長するのを楽しみます。若い人が来ると気持が若くなります。だって。若いメダカさん、ぜひお出掛けを！。電話053・987・2320です。

●飯田市の河原俊文メダカ。第125号のお便りにあった松林建校長の訓話、感じ入りました。しばらくガムのように咀嚼してみたいと思います、だって。多くのメダカ生が感じていたようです。私もですが…。ハイ。

●浜松市の間瀬亮太メダカ。改めて特集号が手元に届いて見ると、かまちゃんのイラスト、パンチがきていますね。みなさんの反応が楽しみです、だって。みなさ

んはどうでしたか？静岡新聞に4コママンガゴンちゃんが掲載されています。ハイ。

●浜松市の大谷洋介メダカ。ご連絡ありがとうございます！お互い年だね。こちらも何んとか生きている感じです。12月7日何んとか出席しようと思っています。頭は悪いし、腰は痛いし、目は悪いし、いつも同じことば！年はとりたくないネ。後、何回続くかな出席が。だって。なんのなんの、3年後には35周年大同窓会がある、まだ90歳にはならないでしょ。次回3月は先生ですぞ！（笑）

●飯田市の長谷部三弘メダカ。メダカの学校より第125号拝受いたしました。メダカの学校の力強さに敬服しています。活動のエリアが磐田市を一带としており、地域の様々な課題を教材に活用している。誰でもが生徒でもあり、先生を体験する仕組みが、しっかり土台の上に築かれているからだ。徹底的な、榊原イズムが全員に理解されている。取り急ぎお礼と所見まで。だって。「建学の精神」があればこそですヨ。私と言え右へ行ったり左へ行ったりと…まさにいい加減です（笑）

●磐田市の山下愛仁メダカ。先日、信州の高遠の地を訪問しました。高遠は故郷会津初代藩主、保科正之公が過ごされた場所です。明治維新、近代化とは何であったのか考える機縁となりました。最近の感想です、だって。

●掛川市の鷺山記世メダカ。ご無沙汰しております。朝の辻立はありがたいことに声をかけてくださる方もいらつしやるため今日迄続けることができました。12月14日には5年目を迎えました。自民党は少数与党になったので謙虚にならなければなりません。来年は選挙です。ご支援の程を！だって。辻立5年目、凄いいね。見てる人は見てるよね。選挙は4月20日投票日。

掛川、袋井、磐田は市長選と市議選。めだか生では、磐田市の草地博昭メダカが市長選に。市議では秋山勝則、芦川和美、八木義弘、袋井市では竹野昇、掛川市では鷺山記世のメダカ生らが立候補予定。頑張れめだか生！！応援してるヨー！！

●袋井市の竹野昇メダカ。新しい年を、互いに命を継続して無事迎えられたことはありがたく嬉しいですね。世界は戦争が続く、何が起きるか分からない。自然界も気候変動、異常気象で集中豪雨や高温、旱魃、地震など災害が続く、厳しい状況に置かれている人々に思いをはせながら、自分の人生を生き抜くことの大切さを感じています。：今年も力を入れたのは憲法の精神・理念を実現する平和活動。5月3日には弁護士猿田佐世さんを袋井市に迎えて講演会を開く。だって。詳しいことは竹野メダカ0538・43・3456まで。

●袋井市の大庭敬子メダカ。：今年には反グローバリズムの年です。トランプ氏は就任前から着々と準備を進めています。また世界はトランプ氏に続く勢力が次々と登場しています。意思決定が遅い日本の政治屋が、世界の潮流に乗り遅れないことを心から祈ります。世界が激動しています。先の予測がつかませんが、今年もよい年になりますように。だって。めだかの便りが出る頃には、トランプさんは大統領に就任しています。さあ、どんな年になるのか…デス。

●千葉県松戸市の滝川徹メダカ。AIやSNSなど便利になりましたが、「これでいいのか」と違和感・危機感を覚えることも多くなった気がします。つながりを大事にしなが仕事や遊びを楽しんで、加齢とも付き合っていくつもりです。ごぶさたしています。ポチポチやっています。だって。やっぱり元ブンヤさんだけあるねえ。●浜松市引佐町の鈴木計芳メダカ。最近出

席者が少なくなつて残念ですね。今の若い人は集まりがあまり好きではないかも。私の考えですが、弁当持参で12時〜13時までフリータイム、13時〜15時まで授業、そのあと意見交換会、歌もいけど大島さん、溝口さんなどの話が聞けるといいですね。よろしく。だって。参加費は2000円にして！。幕の内弁当はさびしいです、とも。いろいろとご提案ありがとうございます！。32年間、建学の精神を基本としながら少しずつ変えてきたけど、みんなと話し合いながら変えていくことも必要だね。

●掛川市の鳥山剛メダカ。バラさん今回も使用済切手を同封します。タイの象さんを使用済切手をすくいましようと言うバラさんの呼びかけに賛同してずっと贈り続けています。一人の力は小さいですが、たくさんの方の協力により大きな力となります。皆さんもぜひ使用済切手を贈ってタイの象さんを助けようではありませんか。積小為大です。だって。何回か静岡県ボランティア協会の小野田全宏メダカに送っていました。今も少しづつ貯めています、です。

●青森県弘前市の鈴木琢真メダカ。お元氣ですか？昨年は北海道津別町で久々に遠州の皆さんにお会いできました。今年の津軽は雪が多いです。だって。ほとんど雪の降らない静岡から雪の多い青森へ。雪かきだいぶ慣れたかなあ（笑）。

●長野県下伊那郡高森町の橋都秀子メダカ。夫と二人、待つてくれている方の為にくだもの作りに頑張ります。だって。デコ果樹園のブドウとリンゴ、最高においしいですヨ。味わってみると分かります、デス。ハイ。

●掛川市の山内秀彦メダカ。浜松市にある東海まちづくりサポートネット代表理事。ぐるり富士山サイクリングツアー、ぐるり

富士山風景街道一斉清掃、天竜ボタリング、浜名湖生き物観察、浜名湖ガイドサイクリング、鯖街道自転車走行空間社会実験の写真と共に。いつもありがとうございます。三遠南信塩の道に関わりを持って頑張っております。だって。いや、昔の仲間が頑張っているのはいいいねえ。めだかの開校時、何歳だった？（笑）

●バラメダカの街角ファイル？カラコロと枯れ葉舞ふみちお正月元日の朝、少し上がった日を浴びながら、浜松市の県立浜北森林公園を歩きに行ってきました。まだ人も少なく気持ちよかったです。みなさんは、どんなお正月を迎えたでしょうか？。今年は『巳年』。へびの抜け殻を財布に入れておくとお金が貯まるとか。ちよつとへびは苦手なので年賀状の図柄は、毎年来るツバメの親子の子育てにしました。毎年ほつこりとさせてくれます。それにしても今年は、年賀状じまいのメッセージのものが多くなりました。時の趨勢でしょうか？。寂しく感じます。

〔寄付〕

●浜松市の藤波公子メダカから、今回も多くの寄付をいただきました。いつもいつもありがとうございます。感謝あるのみです。●静岡市清水区の花井孝メダカから、出席できなくてごめん。と、メッセージと共に三千円を寄付してくれました。ありがとうございます！嬉しいですね。感謝です。

× × × × × × ×

もっともつと伝えたいが、紙面の都合で今回はこれまで。LINE・FBのみならんごめんね。お手紙くださいね。

※めだかの春秋は、今回はお休みです。

■事務局だより

時としてハプニングはあるもので、第125回めだかの学校では、音楽の埤田千聡先生が足首を骨折して欠席。若尾先生のギター伴奏のみでやることに。なんと白髪の童謡歌手(?)がとび出して、酔うが如く朗々と歌い出す。いやゝマイッタ、マイッタでございますれば…

ということでは、第125回めだかの学校は、12月7日(土)。校長は松林建、教頭は埤田久美子、用務員は埤田進治。松林校長は群馬県から気合も十分。支える地元

の富田教頭と埤田用務員、笑顔ありの息もびつたり。今回のテーマは『野を越え山越え年越えて』。今年もあと23日ほど、給食もちよつと氣ばつて…みんなまで歌って年越しを！だったけど、給食のあとは全員での写真撮影。いい顔で、ハイパチリ!!。

13時から校長訓話。7年前、東京の会社を早期退職して、消滅可能性ランキング全国ワースト1位の座を10年間キープと全国的に名が知れた、寂れた村の景観にひかれ、群馬県南牧村に移住。こうした状況でも住民は危機感など感じていないでしょう、など語る。3人ほどの質問があったが、自分の住む地域の課題や松林校長の考えに関するものだった。



い」の特集号の原稿のおれと4頁建が2頁建になったこと、半分弱の人が未提出だったことを語る。埤田克臣メダカが「一宮の若い女性たちが正月飾りを頑張つて作っている。私も協力している」と、事務局の時間を使って話す。

いよいよ授業に。1時間目、服部守孝先生の「遠州地方のキリシタン燈籠について」、プロジェクトを使って、キリシタン燈籠は信長の時代に武將が十字架にみたててつくった。遠州地方には情報を集めて調査したところ

12ヶ所あった。村松達雄メダカがプロジェクトを操作し、12ヶ所の写真をみながら、服部先生が解説。まだまだあるようだ。

2・3時間目の音楽は、若尾和孝先生が始める前に、歌詞をLINEで渡し、ない人には紙で。ギター伴奏にみんなが歌う。でもでも白髪の歌手が登場して、童謡「ふるさと」や「シャボン玉飛んだ」など歌いまくり、演歌「津軽海峡冬景色」や「イエスタデイ」きよしこの夜「お正月」は、3、4人が前に出て歌う。



次期3役発表は、校長埤田克臣、教頭村松達雄、用務員天野智加志の森の3人衆に決まる。埤田女史を抑えるのは天野用務員、支えるのは村松教頭。いい組合わせかも。最後はみんな輪を作り、「きょうの日はさようなら」を歌いつつ、握手して再会を！。次回めだかの学校は3月1日です。

第126回めだかの学校職員会議を、1月11日(土)10時から学舎で開く、校長は埤田克臣、教頭村松達雄、用務員天野智加志の森の3人衆ほか、榎原淑友、伊藤英雄、中村明男、大島たまよ、鈴木眞弓、榎原幸雄の9名。埤田校長、大島メダカ差入れのお菓子をいただきながら、第126回のテーマと授業について話し合う。

3役の森の3人衆なので、先生は浜松の3人衆にと。予定していた小野田宗弘メダカが交通事故の後遺症で出席できず、ということもあって、1時間目道徳「報徳と骨董と」大谷洋介先生(報徳のマンガ本を持って新聞に出ていた)。2時間目社会「ボランティアとは」鈴木偉代先生。3時間目音楽「浜松から音楽を広めよう」中村明男先生に決める。

3人の共通項はボランティア。今回のテーマは、通年テーマの『めだかは続くよどこまでも』に絡めてへはるかなまちなで旅の夢をつなぐにする。

村松教頭が早めに帰りたいと言うので、みんな写真をとって終わりとした。内容的にはスムーズに決まる。



■第32期の受付を始めています。

第32期は令和6年9月1日から、令和7年8月31日までです。毎年度手続きが必要ですが、まだ手続きがされない生徒は至急お願いします。入校手続きがされない生徒は自主退学となります。ご注意を！新しく入校を希望される方がいましたら事務局まで連絡を。申込書と資料を送ります。若い人が入るといいですね。(笑)

■今回も遅れました。ごめんなさい。

いつも生原稿のメール打ちの石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、大島たまよメダカ、埤田千聡メダカ、水島加寿代メダカ、秋山勝則メダカ、写真撮影の横山忠志メダカ、まとめて下さる間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榎原明美さんありがとう。感謝！。

■めだかの学校だよりの原稿を！

今回の発行は、令和7年5月1日予定。締切4月15日です。みなさんの日頃の活動をお手紙・FAX・LINE・FBで、メールの方は、

《mavun.t100@gmail.com》
間瀬亮太090・5009・0986です。
(アドレスが変わりました。まだ昔のアドレスも可。)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田529番地20 榎原幸雄方 TEL 0539・62・6691 (FAX同じ)
※学舎「一宮総合センター」周知郡森町一宮3150。電話 0538・89・7730 開校日の午前11時以降のみ使用可。携帯 080・1612・9130

